

e-dream-s 通信

No.50 発行：2004年11月14日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. 貧すれば鈍す 辻荘一 p.2
2. Core Competence の発見：生まれ変わりへの道 井川好二 p.4
3. 1% (ワン・パーセント) 中川房代 p.8
4. インド、コルカタに行こう！ 山田昌子 p.10
5. お知らせ p.12



「第54回全国英語教育研究大会」における ACROSS・e-dream-s の広報・宣伝活動の様子
2004年11月13日(土) 撮影：藤澤俊之理事

貧すれば鈍す

辻莊一

確か大学生の頃だと思うのだが、小学生に「おじさん」と呼びかけられてちょっとショックだったことがある。以来数十年。すでに「おじさん」の域も過ぎつつあり、おじいさんも間近という今日この頃である。しかしあまり本人に自覚はない。「おじさん」と呼ばれることは仕方がないが、主観的には年を取っていない（少なくとも精神的には）つもりである。

ところが当然、私はどこから見てもおじさんである。周囲は私を当然ベテラン教員として扱う。物言いも物腰も丁寧だ。いや、もちろん尊敬されているとか言うのではなく、年長者に対する礼儀として扱いが丁寧なのである。

例えば、職場の人間と昼食に出ると、同席した同僚が全員自分より年下で、普通に雑談しているつもりなのに他の人間が、私の言うことを拝聴する雰囲気になっていることがあってビックリすることがある。この状況は人によっては気持ちがいいことかもしれないが、私の場合は自分の話し方が無自覚に説教調になっているのでは、つまり、自覚なく説教ジジイになってしまっているのではないかと、人の意見を柔軟に受け入れる傾向がなくなっているのではないかという気がして、居心地が悪い。

とにかく本人の主観はどうであれ私は着実に年を取り、人生のゴール（大したゴールではないのはハッキリしているが）へと近づいているのである。

考えてみれば定年まで十年あまり。教師としてまとまった仕事もあと一つ出来るかどうかという時期まで来ている。体調はいいが、身体と頭の老化は着実に進みつつあって、すぐに疲れるし固有名詞がなかなか出てこないのは、同世代の多くの人々と同様である。

そう自覚すると、人生も残りの年数を指折り数えるというのは言い過ぎにしても、あと何年あって、その残り時間のうち元気で過ごせるのはどのくらいかなあ、などと考えたりもする。

「人生の残り時間」などという言葉が頭にあると、今自分のやっていることが、その残り時間を費やすのにふさわしいことかどうかが気になってくる。話の通じない人と話していると「こんなやつといつまで話しているんだ。もっと別のことをした方が良いんじゃないか」とか思うし、昼ご飯を食べても「あと何回食べられるか分からないのにこんな不味いもの食ってどうするんだ」などと考えたりする。

そう考え出すと、無駄な時間、不愉快な時間を出来るだけ減らそうとすることになる。そしてその最も安全確実な方法は、経験上不愉快ではないと分かっている人とだけ会い、経験上無駄ではないと分かっていることだけすることだ。新しいことに取り組んだり、新しい知人を作ることには常に人生の残り時間を無駄遣いするリスクが伴う。

だが「ちょっと待てよ」と思う。そんな考えを「老化」というのではないか。

「貧すれば鈍す」とはご存知のように「貧乏すると、世俗的な苦勞が多いので、才知がにぶったり、品性が下落したりする」ということだ。そして金銭的に貧して起こることは、人生の残り時間が少なくなったことでも起こりえるはずだ。精神的老化の一つのパターンは、人生の残り時間と言う意味で「貧し」その結果「鈍する」ことで、新しい経験を避けるようになることなのだろう。そしてそんな人生は、夢のない詰まらない人生である。

そんな風に人生を終わりたくないものだと思う。とりあえず年末はインドである。

Core Competence¹の発見： 生まれ変わりへの道

井川 好二

通路の先、奥まったところから、急に景色が開けて、ライトアップされた緑が眼に飛び込んでくる。壺庭²の趣向は、都市住環境の白眉³である。街の真ん中とは思えない壺庭の趣向を持つのは、ビジネス街のフランス料理店。オーナーシェフのこだわりがのぞく。

「なんや、ママ、こんなところへ呼び出して」
「たまには、二人でフレンチも、エエんやないですか？」
「まあ... そうやけど」
「センス、ちょっと、ご相談したいことがありますて」
「恋の悩みの相談やったら、お断りやで」
「違います！」
「そやろな」
「恋の悩み、なんでセンスに、相談せなあかんのどす？」

「そろそろジビエ⁴もいけますよ」と云われても、この気温ではまだちょっとその気になれず、それならやっぱり魚の美味しいとこでと、明石昼網⁵の鯛の白ワイン蒸し。ワインは冷

¹ コア・コンピタンス(core competence)〔外来語年鑑 2002 年〕企業の最も得意とする中核的分野。[現代用語の基礎知識 2002 年版]

² 壺庭： 中庭のことで、今日では「坪庭」の字が多く用いられる。壺には宮中の通り路の意味があり、桐(きり)壺、萩(はぎ)壺、梅壺などのように、キリ、ハギ、ウメなどの植栽が主役になった、建物と建物のジョイント空間を意味した。平安時代からの御所の壺庭は約四、五百坪あって広い空間だが、後の「坪」または「局(つぼ)」は「搾(つぼ)かなる」の意味であり、くぎられた場所とか、周囲を仕切った所をさし、中世以降はごく狭い庭をさすようになった。この狭い限られた空間にも各種の意匠を施すようになり、茶庭と相互に影響しあって、近世以降は町家(まちや)の庭として独自の発展を遂げた。重森完途 [SuperNipponica2003] (C)小学館

³ はく び【白眉】1 白いまゆ毛。2 (蜀(しよく)の馬良は五人兄弟でそろって秀才であったが、特に馬良は最も秀れた人物でその眉毛に白毛があったという「蜀志 馬良伝」の故事から)多人数、または、同種のものなかで最も秀れている人や物。「歴史小説の白眉」 [SuperNipponica2003] (C)小学館

⁴ ジビエ 1 [(フランス) gibier] 狩猟の対象となり、食用とする野生の鳥獣。またはその肉。ウズラ・ノウサギなど。[大辞林 提供：三省堂]

⁵ 「明石の昼網」兵庫県、明石港では、早朝、水揚げした魚をそのまま、セリにかける「昼網」をしています。生きたまま、セリにかけられるので、とっても新鮮。水揚げ後、スグの鮮魚をお届け出来ます。通常魚市場でのセリは朝、水揚げした魚を翌朝にセリにかける

えたシャブリ⁶。そのシャブリには、前菜にとったハモン・イベリコ⁷の生ハムもよくあう。

「実は、おととい、服部さんが入院しまして」
「ええっ！板さんが」
「へえ、夜中に救急車で運ばれたそうで…」
「そら、大変や」
「脳梗塞⁸やそうで、左半身に麻痺がでてます」

運ばれてきた「鯛のワイン蒸しポワロー⁹添え」を、暖かいうちにと一口持って行く。鯛のあっさりとした味付と、しっかりとした食感が、口いっぱい広がって、波穏やかな瀬戸内海をゆったりと食する気分。しかし、今夜は気持ちが重くなって、先へは進まない。

「服部さん、おいくつや？」
「今年で65歳どす」
「そうか。左半身の麻痺や云うたかて、包丁はもう無理やる？」
「本人は、大丈夫や云うたはるんですけど、私は、もう無理かと・・・」

こう云う話を聞いてしまった後は、ワインを飲むのに専念するしかないようで、ソムリエに「次のん、持ってきて」と頼むタイミングで、ブルゴーニュの赤が一本。

「たしか、服部さん、息子さんがおったよな」
「へえ、重チャン、です。去年から、うちの板場に入ってもうてます」
「で、重チャン、どない？」
「こないだ結婚しはったとこなんですけど、まだ、大分かかりますね、一人前にはならはるまで」

システムなので、この「昼網」の場合と違って、鮮度が落ちます。

<http://www.moritaya.com/kodawari/kodawari4/4.htm> より。

⁶ シャブリ【(フランス)chablis】フランス、ブルゴーニュ地方シャブリ地区産の白ワイン。辛口。[大辞泉 提供：[JapanKnowledge](http://www.japanknowledge.com)]

⁷ ハモン・イベリコはスペインの南部と西部の牧草地で放牧されているイベリコ豚から作られます。そこで豚たちは牧草、ハーブ、収穫後の麦の刈り株、林の中のドングリなどの自然餌を食べています。イベリコを造っている会社はほとんどすべてが海拔五百メートル以上の高地にあります。ハモン・イベリコは一般にパタ・ネグラ(pata negra)と呼ばれています。黒い脚の意味で、イベリコのほとんどは黒い脚を持っています。

<http://www.kiritate.com/jamon.html> より。

⁸ のう こうそく〔ナウカウソク〕【脳梗塞】脳の血管が詰まり、そこから先の血行が阻害されるために脳の機能が障害された状態。脳血栓と脳塞栓とがある。[大辞林 提供：[三省堂](http://www.shizen-ohkoku.com)]

⁹ ポワローはリーキともいわれるねぎの仲間、フランスでは冬に欠かせない素材です。白い部分を煮込んでサラダにしたり、スープにしたり。火を通したあとのとろっとした甘さが魅力です。

http://www.shizen-ohkoku.com/cooking/recipe.php3?contents=chef&recipe_id=SH01022-2-013 より。

柄にもなく食欲がなくなっても、ワインは飲めるのが喜び。こっちも、脳梗塞の心配がないではない。それで、気分はさっきから随分重いのだが、そろそろアルコールが効いてきても良さそうな頃合である。

「もう、店閉めよかとも、思うんです」
「おいおい、そんなにヤケ起こしたらあかん」
「けど、お客さんは、板さんの料理で店に来てもうてましてんから」
「それだけやないけど・・・」
「けど、センス、どないしたらエエ思わはります？」
「コア・コンピタンスや」
「また、センス、うちが横文字アカンの知ってて・・・」
「強みは何か、云うことや」

ここで少しおさらいをすれば、コア・コンピタンスとは：

コア・コンピタンス(core competence)

〔経営〕経営の内部資源のひとつの集積がコア・コンピタンスで、「顧客に特定の利益をもたらす一連のスキルや技術をいう」(ゲリー・ハメル、C・K・プラハラード『コア・コンピタンス経営』)。訳者の一条和生・一橋大学助教授はコア・コンピタンスをもっと具体的に「文字どおりコアな(中核的な)コンピタンスで、他社に対して圧倒的に有利な企業独自の究極的な能力」「他社には提供できないような利益をもたらすことのできる企業内部に秘められた独自のスキルや技術の集合体」と述べている。一言でいえば、各企業で何十年にもわたって蓄積され、新事業や新製品開発の成否を担ってきた固有技術(ナレッジを含む)のことである。[現代用語の基礎知識2002年版]

「他社に対して圧倒的に有利な企業独自の究極的な能力」のことをコア・コンピタンスと云う。企業が生まれ変わるためには、コア・コンピタンスを核にして「事業の再生と戦略の作り直しが必要」だと云う。けだし、その企業が他社に対して圧倒的に有利な能力とは何かを発見することが先決。

「間違いなく服部さんの料理が、コア・コンピタンスの一つやったけど、他に何かないか？」
「他には、別に、何も・・・」
「酒も、結構エエのん置いてるやないか」
「へえ、お酒はねえ、先代さんの時代から、蔵元さんからエエのんまわしてもろてます」
「それと、なんと云っても、ママの魅力やな」
「センス、もっと云うて下さい！」
「アホ、けど、それ目当てに来てる奴も多いで」
「そうでしょうか？」

自分の強み、自社の強さとは、なかなか自覚がなく、自力では発見できないのかも知れない。第三者に指摘されて、ああそうかと初めて納得するものなのかも知れない。また、自分でこれが自分のコア・コンピタンスだと思っけていても、顧客の眼からはそうではなかつ

たケースも多々あるだろうし、時代の変化にあわせてコア・コンピタンス自体が変化する場合だってある。

「重チャン使って、ランチやってみたらどうやねん？」

「お昼ねえ？お昼店あけても、しんどいばかりで・・・」

「それがアカン。しっかりランチで若い子釣って、夜に来てくれる新しい客層を確保せな」

「けど、センス・・・」

「重チャンの料理、夜やったらマダマダでも、ランチやったらそれなりにやれるかも知れん」

「へえ・・・」

「それに、これから、ランチで、新しい味を創っていくぐらいの気持ちなかってどうする」

「・・・」

ワインに代えて飲みはじめたアルマニャック¹⁰が、喉を通る。アツイ。半身が麻痺した昔気質の板前と、その少し頼りない息子のことを考える。こんな夜は、ちょっと酔いたいものである。

「わかりました、センス。ランチでがんばってみます」

「そうや」

「夜は、重チャンがしっかりするまで、誰かにピンチヒッターを頼みます」

「それがええ。夜は味、落とされへんからな」

やはり、少し酔っぱらってしまい、もう一杯だけにしておかないと、明日が危ない。そう気がついただけ、今夜は優秀なのだろう。

「けど、センス、私、昼はどないしてたらエエんですか？」

「さしずめ、重チャンの手伝い兼、料理研究家やね」

「なるほど。それが私の新しい顔になるんですね」

「そうせなアカン」

新しい顔は、新しい強さでもある。壺庭の孟宗竹¹¹が、いっそう緑に見える。(Sunday, November 14, 2004)

¹⁰アルマニャック (Armagnac) フランス南西部、アキテーヌ盆地南東部の地方。ガロンヌ川支流のジェル川など、複数の河川が形成する扇状地に位置。ブドウ栽培がさかんで、アルマニャック ブランデーの産地として有名。中心地はオーシュ、レクツール。【新世紀ビジュアル】

¹¹もうそうちく 【孟宗竹】高さ 20m,直径 20 cmにもなる最も大形のタケ。イネ科。茎の肉が厚く、葉は小枝の先に 2~8 枚つく。中国原産。関東以南に多く栽培。三大有用竹の 1 つで、材を竹細工・花器・床柱などに利用し、タケノコは食用。moso bamboo 【新世紀ビジュアル】

1% (ワン・パーセント)

中川房代

千葉県市川市は、12月の市議会で、市民税の1%・約3億円を住民の意思でNPOやボランティア団体に配分する条例「市民活動支援制度(仮称)」を提案するそうだ¹²。報道によれば、市の全世帯に配布している広報誌に回答用紙を付け、22万人いる納税者に自分が応援したいNPOやボランティア団体を指名してもらおう、というもの。可決されれば、日本初の取り組みとなる。

他の地域でも、市民税の1%の使い途を住民の意思で決定しようという地域があり、埼玉県志木市で2005年度から実施、東京都足立区・長野県・北海道ニセコ町等で検討中だそうだ。このようなやり方は、海外では、ハンガリー、スロバキア、リトアニアで実施されており、今回の1%方式は、「ハンガリー方式¹³」と呼ばれている。

行政に民意を反映させるしくみで、1%住民税とともに最近話題なのは寄付金制度の条例だ。自治体が掲げた複数の政策から住民に寄付してもらい、その金額の多い順に行政が政策を実行する方法だ。長野県泰阜(やすおか)村では、1口5,000円の「ふるさと思いやり基金」を募集したところ、2ヶ月半で410万円が集まったそうだ。泰阜村の人口は2,000人。寄付者の大半は、都市に住む人(村出身者以外)がしているらしい。どんなアピールをしているのか興味がある。機会を見つけて取材してみたいものである。同様の寄付条例は既に、北海道ニセコ村で実施されており、兵庫県篠山市などでも検討中だそうだ¹⁴。

1% (ワンパーセント)

語呂がいいのか(？)、ささやかな感じが共感を呼ぶのか、ちょっと幸せを分けても大丈夫な安心感があるのか、寄付の1%というのは、他でも行われている。

「経団連(社団法人日本経済団体連合会)1%クラブ¹⁵」や大型スーパーなどで知られるイオングループ

¹² NPOWEB NPO・市民活動を支えるニュース&情報サイト

http://www.npoweb.jp/news_info.php3?article_id=1739

千葉光行・千葉県市川市長大型インタビュー・中国新聞

<http://www.chugoku-np.co.jp/kikaku/interview/ln04091201.html>

¹³ 「所得税1%法」とはどういうものなのですか。

「納税者が納める所得税のうち1%分を、自分が選ぶNPOに献金することを認める法律です。もし、どこも支援したくないということであればその1%は政府の国庫にそのまま入ります」

実際に所得申告の際、自分の好きなNPOの名前を書き込む人々はどのくらいいるのですか。

「30~40%の納税者が支援したい団体の名前を書き込んでいます」

船橋洋一の世界ブリーフィング No.624 [週刊朝日2002年11月15日号]

<http://www3.asahi.com/opendoors/zasshi/syukan/briefing/backnumber/600/624.html>

¹⁴ 「日本経済新聞」2004年10月18日(月)朝刊の記事より

¹⁵ 経団連(当時)では、86年、89年の2回に渡って欧米に社会貢献調査ミッションを派遣し、米国に1%クラブや3%クラブなど、いわゆる「パーセントクラブ」があることを学びました。まず89年11月に個人会員を対象とする1%クラブの設立を呼びかけ、翌90年11月には176社の法人会員を含む「1%クラブ」が正式に設立されました。会員数：法人会員273社、個人会員1,433名(2003年5月現在)

の「イオン1%クラブ¹⁶」がある。いずれも利益の1%を社会貢献に使うという趣旨である。

話は飛んで、e-dream-s。

e-dream-sも8月の総会で協賛金制度の実施が決定された。協賛金とは、はやい話、寄付である。これは自分の意思を反映するお金である。自分はe-dream-sにどんな活動をして欲しいと思っているのか、自分のお金をどう使いたいのか、考えていきたい。自分の出したお金のいくらが、どう使われ、どう活かされるのか。どうしたらもっとe-dream-sの事業に、また社会に貢献できるのか。

こちらは、1%ではなく、「1口2,000円e-dream-s協賛金(仮称)」。

実施が遅れているが、11月中には、スタートしたいと考えている。お金について、一緒に考えていきましょう。

<http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/1p-club/outline.html>

¹⁶イオンは、「環境保全」「国際的な文化・人的交流」「地域の文化・社会の振興」を柱に、良き企業市民として地域社会への貢献活動を推進するため1989年に「イオン1%クラブ」を設立しました。

<http://www.aeon.info/1p/top.html>

インド、コルカタに行こう！

山田昌子

以前から ACROSS や e-dream-s で「インドに行こう」と言いながらのびのびになっていた。先日、来夏はインドだ！と提案がなされ、12月の下見ツアーが実施されることになった。いよいよ来たか…という心境。インドは是非一度行ってみななければいけない国。個人的には「タージ・マハル」の神聖な美しさに憧れているし、聖なるガンジス河もこの目で見なければいけない。マハラジャの宮殿も捨てがたい…いや、本場のインド料理を食べずして辛いもの好きは名乗れない。はたまた、今年度使用している英語の教科書^(註1)には、珍しくインドについての記述が多い：

(略)As you know, India is famous for its curry, but the taste of curry changes every 25 kilometers. This is also true of languages in India. If you travel 50 kilometers, you will hear a different language. Indians speak about 350 languages in total. Among them 18 languages are official languages. So you can hear at least 18 different languages on TV or radio.

また、他のレッスンでは、井川先生が先月述べられていた地名チェンナイ、ムンバイについての記述^(註2)がある。いつの間にやら、「インド、行きたいなあ！」という気持ちが一層膨らんでいた。

たとえ行きたい土地すべてを訪問できなくても、インドを見ずして何も語れない。この冬はインド旅行に行くしかない！母が病み上がりなので、年末に家をあけるのは無理かなと懸念したが、言い出したら聴かない娘(?!)。意図を理解し、両親は「気をつけて行っておいで」と言ってくれた。

神秘の国、インドと言えば、外交官であるパスカル氏(カメルーン)^(註3)やラシディ氏(マレーシア)^(註4)の同期に、ルペシ氏がいる。インドに行くなら是非彼にも会いたい。ひょっとしたら協力してくれるのではないかと。勤務校を訪問された折り「是非インドにおいて、僕の家泊まってくれてもいいよ。」と言ってくれたのを思い出した。そこでメールを送ったが「残念ながら、現在は外務省ではなく他の省に勤めているので期待にそえそうもない。」とお返事が来た。そこで「コルカタに知り合いがいれば紹介してほしい。」等何度かメールを出したが、返事なし。万事休す。

そこで、岩にもすがる思いでインターネットを調べ、コルカタ出身の人を探した。様々な言葉や文化の国だから、デリーの人がコルカタの人を紹介するのは私が思う以上に困難なことなのかもしれない。そう思った。果たして…、いた、いた。2年前京都三条通りに出来た「スジャータ」というインド料理の店^(註5)の調理・ホール担当にコルカタ出身のラジュー氏がいた。初めて行くインドレストラン。ドキドキしながら出かけた。

「すみません。ちょっと早いですが、ランチいいですか？」

その日から手伝っているという日本人女性とラジュー氏らしき男性がにこっとほほえんでくれた。調理場の貫禄たっぷりのインド人シェフもうなづいていた。<質素やけどなかなか感じいいやん！>

「スジャータ・ランチお願いします。それと・・・マハラジャビール。・・・あの・・・コルカタに旅行に行く予定なんですけど、ラジューさんにお話聞かせていただいていた方がいいですか？」

恐る恐る尋ねてみた。

ラジュー氏は、物静かだが、小柄で明るい性格の青年。浅黒い顔に優しい表情が印象的だ。来日4年、日本語もうまい。ホームページ^(註6)によると、他のインド人従業員は、デリーやケララなど異なる土地から来ている。コルカタ出身は彼だけだ。

「インド、初めてですか？」

「ええ、そうなんです。アジアのいろいろな国を訪れてきたのですけれど。」

あてにしていた外交官に断られ困っているのを助けてほしいと言うと、彼は親身になってくれた。

「弟がコルカタで旅行社をしていますので、役にたつかも知れません。また、個人的にも助けてくれるかも知れません・・・。」

アジア・ツアーの意図を話し、先生方に出会ったり、ホームステイ(ビジット)したいと言うと、

「じゃあ、今回は(旅行社とは関係なく)個人的に弟が助けるということにしましょう。わたしが学んだ日本語学校もありますよ。なんでしたら、うちの家に来られてもいいですよ。姉はあまり英語は上手くありませんが、手助けにはなると思います。僕は2、3月に帰国するので、その時ご一緒にもいいですよ。」

彼は、私が野菜カレーやチキンカレーをナンにつけ食べている間に、他の客の接待をしながら何度も行ったり来たりして、広いインドについて話してくれた。そして、初対面の私に自分の携帯番号、携帯アドレス、弟さんのメールアドレスを教えてくれた。

実際弟のDeepak氏と連絡を取り始めるのは来週になる。が、小さい道だけど、何か開けた気がした。このコンタクトがどういうものになるかはまだまだ未知数だけど、私は、軽いけれど香りあるマハラジャビールを飲み、北インドのおふくろの味のようなカレーを食べながら、なんだか身体がポカポカしていくのを感じた。

註1:高1英語 I 教科書 "Exceed English Course I"(三省堂)Lesson 1 から

註2:高1英語 I 教科書 "Exceed English Course I"(三省堂) Lesson 4 から

(略)You see the name of 'Bombay' on the old map. The map makers had used that name until 1997. But from 1998 they have decided to use 'Mumbai' too. Also they have started to use both 'Chennai' and 'Madras'. 'Mumbai' and 'Chennai' sound like the original names, so they are now used on new maps. About 4,000 names are going to be changed into the original names.(略)。

ちなみに、今回下見で訪問予定のコルカタも、以前はカルカッタと呼ばれていた。

註3:中川さんと私は2002年12月カメルーンを訪れた時に、ホストとしてお世話になった。

註4:2002年夏、シンガポール&マレーシアでのアジア・ツアーの際、クアラルンプールにおける協力者を紹介

してくれた。

註5、6：http://kyoto.jr-central.co.jp/kyoto.nsf/spot/sp_sujata
<http://www.sujata-restaurant.com/staff.htm>

お知らせ

1. 担当者が替わります

現在、「e-dream-s 通信」の編集は、塚本理事と田辺理事が担当していますが、11月より、塚本理事と東京の岡田理事が担当することになりました。

また、「e-dream-s ホームページ」の更新・管理については、田辺理事のヘルプとして大阪の仙崎さんが担当に加わります。

新しい担当者がスムーズに仕事ができるよう、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

以下は、新しく担当に加わった岡田理事と仙崎さんからのメッセージです。

< 岡田 かおる >

今度、田辺さんの後任として e-dream-s 通信の編集を担当することになりました。前任者のように、丁寧な対応と細かい配慮を心がけたいと思います。慣れないことで皆さんにご迷惑をかけることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

< 仙崎 裕右 >

このたび、e-dream-s ホームページの担当に加わり、お手伝いをさせていただくことになりました、大阪の仙崎裕右と申します。大学院生だった頃、戯れに自分のホームページなるものを立ち上げてみたり（実は自分のダイエット記録がメイン記事になっていて、体重グラフをしばしば更新していた、今となっては恥ずかしい過去なのですが）、院時代から所属している研究会のホームページの更新をお手伝いしていたこともあり、そんな芸事が今回のご縁につながりました。アクロスの方ではいっこうに成果を

出せず、実習をしていただいている先生方にご迷惑をかけたおしなので、こういったことで(点数稼ぎ<冗談ですよ!>というか、名誉挽回というか)貢献できることに少なからず喜びを感じております。微力ながらお手伝いさせていただきますので、よろしくご指導ください。

2. 「ACROSS アジアツアー2005 ; インド」の準備状況

2005年夏のツアー実施の準備を進めるべく、「インドツアー準備委員」を募集しましたところ、4名の応募があり、以下5名で「準備委員会」を発足させました。(敬称略)

準備委員長：井川顧問

準備委員：河野、塚本、山田、中川

準備委員については、継続して募集していますので、是非ご応募下さい。

現在、準備委員を中心に、インド現地でのコンタクトを探しているところです。インド人のお知り合いや紹介して下さる方がいらっしゃいましたら、お知らせ下さい。

尚、準備委員会では、12月末に約1週間の旅程で下見に行く予定です。

3. 「全英連」で ACROSS・e-dream-s を宣伝

11月12日(金)・13日(土)に大阪に於いて「第54回全国英語教育研究大会」が開催され、ACROSS・e-dream-sの広報・宣伝活動を行いました。

この大会は、全国から小・中・高校の英語教師が集まる場であることから、ACROSSとの共同で宣伝ブースを設置し、ACROSSの会員・冬合宿の参加者募集、e-dream-sの@aglanceの紹介、ECAPテキスト「A Rainbow over the Strait ~海峡に架ける虹~」の宣伝を行いました。



宣伝ブースでは、ACROSS の紹介、冬合宿案内、@aglance の紹介、「A Rainbow over the Strait」の宣伝をしました。チラシは 200 枚を参加者に渡しました。テキストについても、1 冊持ち帰って教材として使うかどうか検討したいと言って帰った人もいました。

@aglance 紹介のチラシは「授業で使える写真」「無料」「67 ヶ国」と声を掛けながら渡したのですが、通り過ぎてから、チラシを受け取りに戻ってきてくれた人もたくさんいました。これで、@aglance のアクセスが増えるといいなあと思います。

具体的な報告は次の機会に行います。また、配布したチラシは最終ページに掲載しています。

編集後記

仕事で、駐福岡韓国総領事にお会いする機会があったので、「A Rainbow Over the Strait 海峡に架ける虹」をお渡しした。総領事は、「立派なことをなさいましたね。」とおっしゃりながら、最初のページから丁寧に読んでくださった。「21 世紀は、韓国と日本が世界の中心になるべき時代です。」とおっしゃる総領事は、大変な親日家で、自らを「福岡人」と称し、忙しいご公務の合間をぬって福岡のみならず日本中に足を伸ばしご見聞を広めていらっしゃるご様子である。総領事のお話を伺いながら、地元のことであるのに、何も知らない自分を恥ずかしく思った。来年は、大阪で ECAP を開催する予定である。それまでに、もっと日本のことを知っておきたいと思う。(塚本美紀)

日本と韓国の文化理解のために両国の英語教師が作成した

日韓相互理解教材 (3ヶ国語版/英語・日本語・韓国語)

「A Rainbow over the Strait ~ 海峡に架ける虹」

2004年4月、中・高校の英語教師の研修団体アクロス (ACROSS: Association of English Teachers for Cross-Cultural Communication) と特定非営利活動法人 イー・ドリームズ (e-dream-s) は、日韓相互理解教材「A Rainbow over the Strait ~ 海峡に架ける虹 ~」を出版しました。(下の写真は、その教材テキストの表紙)



昨年2003年8月、日本と韓国の教師が、両国の文化理解を進める共通教材を作成しようとプロジェクトを企画し、作り上げた英語版に日本語版・韓国語版を加え、写真・参考資料なども掲載したテキストです。

扱っているトピックは、いずれも日本や韓国の生徒・学生が興味を持てるものばかり。英語の勉強と共に、両文化の共通点や相違点の理解を深めることができるよう工夫されています。

日本・韓国の多くの中学校、高校、大学でこのテキストを活用して頂き、両国の相互理解が進められることを期待しています。

テキストは、全93ページ。掲載されている12のトピックは、以下の通り。

- | | | | | |
|----------|---------|---------|--------|----------|
| 1. 食べ物 | 2. 結婚 | 3. 暖房 | 4. 文字 | 5. 学校生活 |
| 6. いじめ | 7. 入学試験 | 8. 美容整形 | 9. 徴兵制 | 10. サッカー |
| 11. ポップス | 12. 儒教 | | | |

テキストをお分けしています。(詳細は以下まで)

「A Rainbow over the Strait ~ 海峡に架ける虹 ~」についてのお問い合わせ:

辻 荘一 tsuji@e-dream-s.org (特定非営利活動法人 イー・ドリームズ・代表理事)

ホームページ:

アクロス

<http://www.aglance.org/across/>

NPO 法人 イー・ドリームズ

<http://www.e-dream-s.org/>

世界 67 ヶ国の“人々のくらしや文化”が一目で分かる画像の図書館
教育用写真サイト

「アット・ア・グランス @aglance」

<http://www.aglance.org/>

授業等でご利用下さい！無料！（現在 7,180 枚を収録、毎日 5 枚ずつ更新）



小学校のハロウィンパレードの仮装した生徒たち



ブルルーン・ヤラシザ ブリヤッザリイ市場にて

© e-dream-s



アメリカ ニューヨーク 高級のマクドナルド

* 画像の検索は、国名、カテゴリー（生活・風景・学校等）、特集（ハロウィン、グランド・ゼロ、モンゴル羊の解体等）からできます。

* 画像を使った授業実践例（英語、総合的な学習）も、紹介しています。

画像の提供にもご協力を！

「教育用写真サイト @aglance」についてのお問い合わせ：

辻 荘一 tsuji@e-dream-s.org（特定非営利活動法人 イー・ドリームズ・代表理事）